

【第一線で地域医療をリードする病院紹介】

The front hospital

ザ フロント ホスピタル

社会医療法人 関愛会

佐賀関病院

大分県大分市

勤務医有志が創設した医療法人が 町立病院の経営を継承 地域包括ケアシステムの拠点として役割を推進

社会医療法人関愛会佐賀関病院は2004年、佐賀関町立国民健康保険病院の経営を引き継いだ。07年、医療療養病床を回復期リハビリテーション病床に転換。以降、地域包括ケアシステムの推進を旗印に、医療資源の少ない地域で支援の灯をともし続ける。

地域医療を守る一心で 病院経営を引き継ぐ

平成の大合併が進んでいた02年、大分県佐賀関町でも、隣接する大分市との合併問題が持ち上がった。病院数が多く市立病院を持たない同市は、合併後の佐賀関町立病院の経営を拒否し、民営化を要求。同院に勤務していた長松宜哉氏ら医師4人は、地域医療を守るために医療法人関愛会を立ち上げ、経営を引き継いだ。

初代理事長の長松氏（現会長）は、14年に発行した法人創立10周年記念誌で、「公立病院改革の代表的事例として全国的にも注目されたが、強調したのは医療の継続。市町村合併等の政治的なことで、1つの病院を簡単に廃止し機能を変えるのは傲慢。地域にとってかけがえのない病院ほど利用者が困るということ」と指摘。現在の公立病院再編問題につながる視座を提示している。

現理事長の増永義則氏は「当時の私は、長松会長についていくという感じでした。職員も公務員ではなくなり給料も減額という中、残ってくれましたし、地域の人たちが『病院を残してほしい』と支えてくれました」と振り返る。

自立、自律、自己責任をモットーに、身の丈経営の方針で



「地域包括ケアシステムの重要な役割を果たしていきたい」と語る増永義則理事長。

スタート。05年、病院を新築移転したのを機に、113床から90床に減床し、06年には40床の介護療養病床を医療療養病床に転換。07年にはさらに回復期リハビリテーション病床へと転換した。

旧佐賀関町内唯一の病院として、プライマリケアや一次救急を担うほか、診療所での外来診療や訪問診療、デイケアやデイサービスなどの事業も充実。医療、介護機能の双方をもち、法人の理念として「地域包括ケアの推進」を掲げた。

「患者様やご利用者様の『生活』に視点を置き、医療・福祉・介護を統合した包括的なケア提供を進めてきました。市内の急性期病院との連携も深まり、急性期以降は当院が担当する仕組みも整っています。住民主体の地域包括ケアシステム推進という関愛会の考え方は、地域に浸透したと感じています」と増永理事長は胸を張る。

施設から在宅まで、キュアからケアまで 包括的ケアを展開

同法人の事業は、在宅（訪問診療、訪問歯科診療、訪問看護、訪問リハビリ）から施設（病院、診療所、介護老人保健施設、有料老人ホーム）まで、キュア（急性期、地域包括ケア、回復リハビリ）からケア（デイサービス、デイケア、訪問介護、健康増進）まで、幅広い領域での包括的ケアの展開が特色だ。

患者さんの抱えるさまざまな問題に、多職種連携でこたえようというチームワークが基本。退院後、自宅に帰って発生した問題に対し、ケア会議などを利用して多職種で話し合うことや、入院中に退院後の生活を想定してカンファレンスを持

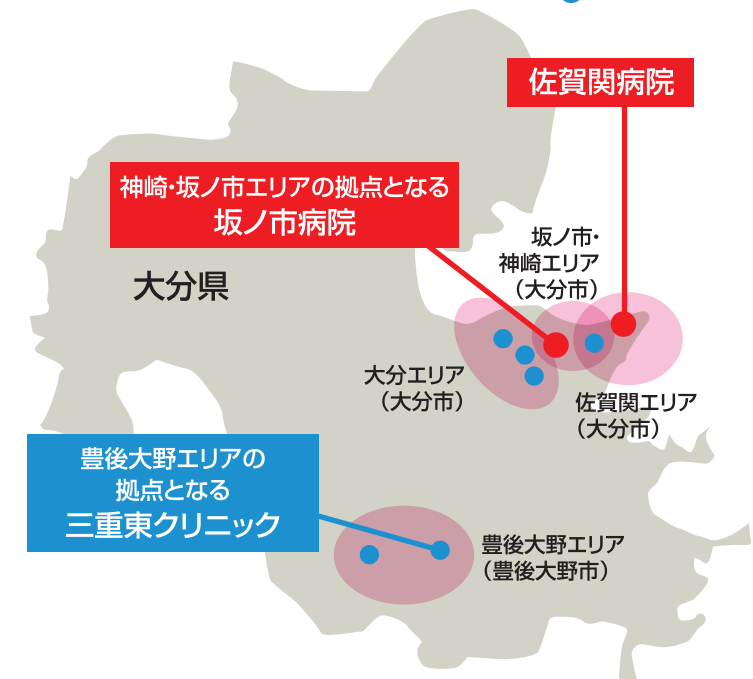


佐賀関病院。

The front hospital

関愛会施設（大分県内）

● 病院
● クリニック



坂ノ市病院。



三重東クリニック。

つなど、多職種が専門性を生かした支援を重視している。

同法人に所属する医師は、長松会長や増永理事長と同窓の自治医大卒が多く、プライマリケアやへき地医療の経験者だからこそ、医療と介護を併せた事業展開の核になると、増永理事長は考えている。

事業は、大分市内の佐賀関エリア、坂ノ市・神崎エリア、大分エリアと、豊後大野市内の同名エリアおよび大分県外の5エリアで展開。このうち、豊後大野エリアでの事業は、採算性より、「地域医療を守る」という同法人の考えを重視した実践だ。

05年に三重町、清川村、緒方町等5町2村が合併して誕生した豊後大野市は、高齢化が進む一方、医療機関の閉院も相次いでいた。10年には、県立三重病院と公立おがた総合病院が合併し、旧緒方町に豊後大野市民病院が新設された。県立三重病院に勤務していた自治医大卒の医師3人は、旧三重町内の医療が手薄になることから、クリニックとして診療継続を希望。同法人に経営支援を依頼し、三重東クリニックとして開院し、同エリア内に11年には清川診療所も開設。同診療所は、デイケアも併設し、旧清川村唯一の医



急性期後の患者さんを受け入れる回復期リハビリテーション病棟リハビリ室。



旧佐賀関町内唯一の病院として、救急から在宅ケアまでの機能を担う。

療機関として住民の健康を支えている。

さらに、大分エリアでも市内中心部と比べると病院数が少ないことから閉院を検討しているクリニックをM&Aで継承し、在宅療養支援診療所として訪問看護や訪問リハビリを併設。急性期病院から在宅に帰る患者さんを住み慣れた地域で支える機能を重視している。

現在は法人全体で病院2施設、クリニック9施設、介護老人保健施設2施設のほか、有料老人ホームなども展開している。



地域包括ケアシステム充実のため、多職種連携での支援を重視している。
(撮影 18年)



増永理事長が専門とする腎臓内科・透析にも力を注ぐ。



各エリアでの地域包括ケアシステム推進に欠かせない訪問診療。
(撮影 19年)

エリアごとの健全経営のため 事業再編に着手

同法人の組織は、5つのエリアそれぞれに医療と介護部門の事業所があり、各エリアに事業統括責任者の医師を配置して、エリアごとに経営戦略を立てる。法人本部は総合的な管理や支援の役割をもつ。

増永理事長は「目標は各事業所単体の黒字。最低でも各エリアでの黒字を達成したい」と語り、エリア会議や経営会議で情報と戦略を共有し、徹底を図っている。管理職のスキルアップを目指し、S-Linkで多職種連携の研修会を実施。各事業所の目標管理を浸透させるため18年から、バランススコアカードも導入した。

増永理事長は「新型コロナのため、自立性を高める取り組みは滞りがちでした。感染対策のための病床減など、経営にも影響はありましたが、5月以降は持ち直してきました。今後は、地域の高齢化や過疎化への対応が課題です」と語る。

同法人が本部を置く佐賀関エリアは高齢化率が50%を超えており、利用者が減少する事業所も出てきた。地域のニーズに合わせ、エリア別に事業の再編を考えており、まず、大分市内の老人保健施設「やすらぎ苑」に病院を開設し、医療機能を強化。同市大東地区での地域包括ケアシステム推進の拠点とする計画だ。



さまざまな専門職が患者さんの治療にあたる「チーム医療」を実践。
(撮影 14年)



職員向け研修会を開催し、多職種連携の強化を図っている。

「患者様やご利用者様が必要とする医療やケアとは何かを最前線にいるスタッフが考えていくことによって当法人の理念が実践されると思います。地域の中核病院や医療介護施設などと連携しながら、患者様やご利用者様に『関愛会の包括的ケア』を提供することで、地域包括ケアシステムの重要な役割を果たしていきたいと考えています」。

hospital data



社会医療法人 関愛会 佐賀関病院

〒879-2201
大分県大分市大字佐賀関750番地88
TEL:097-575-1172
http://sekiaikai.jp

- 診療科目:内科、循環器内科、呼吸器内科、消化器内科、小児科、整形外科、外科、肛門科、耳鼻咽喉科、眼科、リハビリテーション科
- 病床数:71床(一般病床16床、地域包括ケア病床13床、回復期リハビリテーション病床42床)